

1 人口

(1) 総人口

白石・福富・有明3町の人口を合わせると2万8千人程度となり、現状では佐賀市、唐津市、鳥栖市、伊万里市、武雄市、鹿島市に次ぐ規模になります。

このように、合併することで、これまで以上に幅広くかつ専門的な公共サービスを展開できる自主的・自立的な町が誕生することになります。

しかしながら、人口は減少傾向にあり、現在の水準で推移していくとグラフ1のとおり平成22年には2万5千人台、平成27年には約2万4千人になると予測されます。

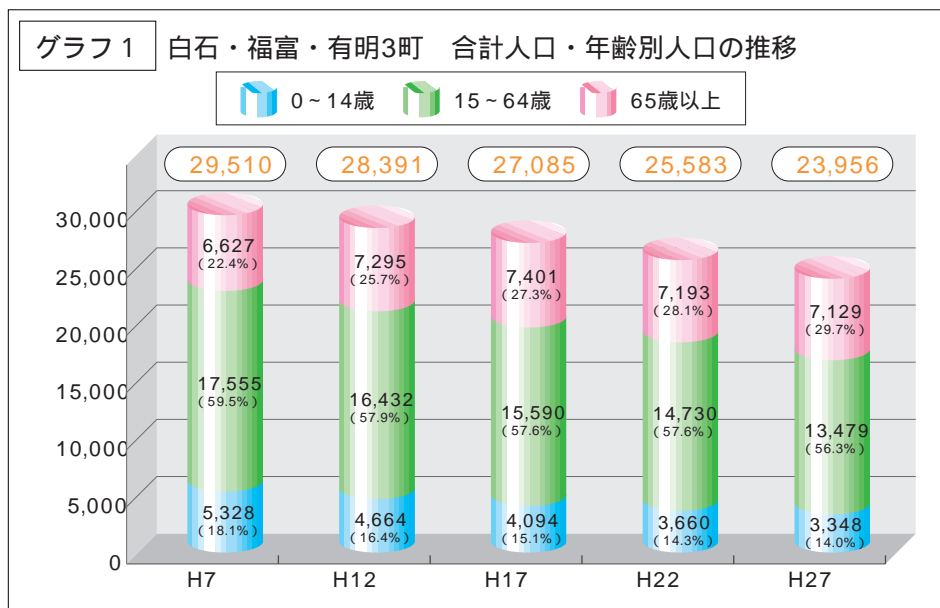
新町においては、合併による地域のイメージアップを図りながら、子育て支援など、各種施策を効果的に推進することにより人口減少の歯止めに努めます。

(2) 年齢別人口

新町の年齢別人口については、階層ごとにグラフ1のとおり推移するものと予測されます。

年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）については、人口、構成比ともに減少を続けるものと見込まれます。

高齢人口（65歳以上）については、平成22年から人口は減少するものの、構成比については増加の一途にあり、近年の全国的な高齢化の進展と同様の推移になっています。

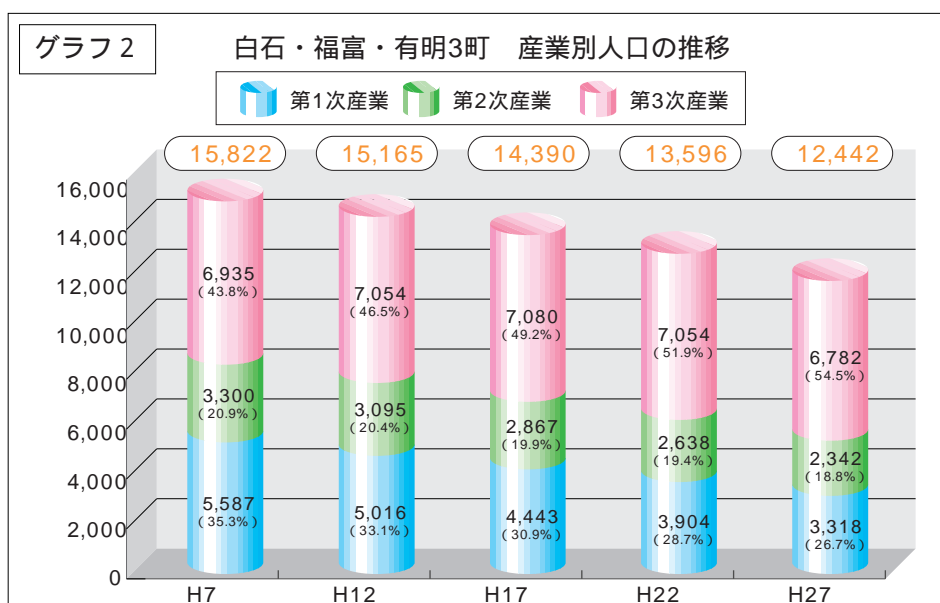


- この見通しは、平成7～12年の国勢調査の人口をベースに推計したが、平成12年分は年齢不詳者（2名）を含んでいないため、5ページの人口総数と合わない。
- 人口・年齢階層別人口：コホート要因法をベースに推計した。

(3) 就業人口

就業人口については、グラフ2のとおり総人口の減少に伴い減少傾向にあります。就業率についてはほぼ横ばい状態だと推測されます。産業別人口では、第1次産業の著しい減少が目立ち、平成12年の33.1%から、平成27年には26.7%になるものと見込まれます。第2次産業は微減傾向にあります。

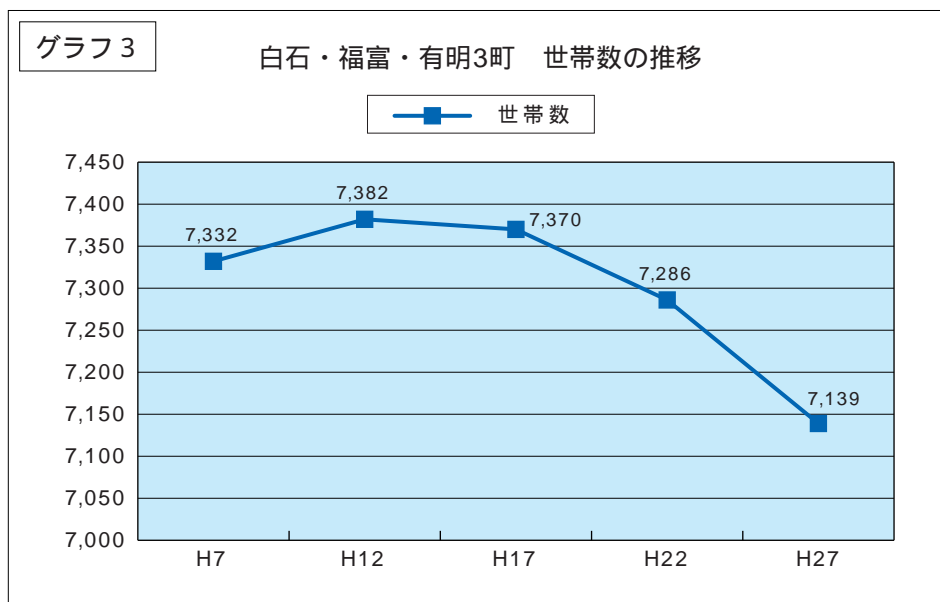
対して、第3次産業については増加傾向にあり、平成12年の46.5%から、平成27年には54.5%にまで上昇すると推測されます。



1 就業人口・産業別就業人口の見通しは、平成7年と12年の国勢調査の人口をベースに、一次回帰直線法により推計した。

2 世帯

世帯については、核家族化がさらに進行すると考えられるものの、1世帯あたりの人員が微減傾向にあることから、グラフ3のとおり平成12年の7,382世帯から、平成27年には7,139世帯まで減少すると推測されます。



世帯数：H7とH12の国勢調査の世帯数をベースに一次回帰直線法による1世帯あたりの人員の予測を行った。各年の世帯数は、(各年推定人口÷各年推定世帯数人員)により算出。